

登場人物

ホシノ・ミツキ 研究員
ツキシロ・マユミ 雑誌のライター
ホシノ・タカシ ミツキの兄
アサノ・マサヒロ 研究所の事務員

Le Vendredi éternel : À tous ceux qui restent et ont disparu.

0 日曜日 *Dimanche*

一条の光がさすと、ミツキがたっている。

永遠の金曜日

ミツキ

はじめに ひかりがありました
ひかりは 哀しかったのです

ひかりは

ありと あらゆるものを

つらぬいて ながれました

あらゆるものに 息を あたへました

にんげんのこころも

ひかりのなかに うまれました

いつまでも いつまでも

かなしかれと 祝福へいははれながら

安部枕流

（八木重吉「貫く光」）

1 月曜日 Lundi

ぼんやりと紗幕越しにうかびあがるタカシ。

ミツキ おはよう……
タカシ おはよう……
ミツキ いま、どこにいるの……？
タカシ オールトの雲……
ミツキ 雲のなかなの……？
タカシ いや、そういう名前の空間だよ……
ミツキ どんなかんじ……？
タカシ そうだね、ものすごくひろくて……
ミツキ 迷子になっちゃいそう……？
タカシ かもね……
ミツキ こっちは、すごくせまいかんじ……
タカシ 息がつまりそう……？
ミツキ ちよつとね……
タカシ そういえば……
ミツキ なに……？
タカシ きょうは何曜日だっけ……？
ミツキ 月曜日だけど……？
タカシ じゃあ、空の誕生日だね……
ミツキ 誕生日……？

タカシ 神さまは、月曜日に天空をつくったんだ……
ミツキ 創世記……？
タカシ そうして、金曜日に大地のうえのあらゆる生き物をつくった……
ミツキ じゃあ、人類の誕生日は金曜日だね……
タカシ それで、シゴトはおしまい……
ミツキ おやすみだもんね、土曜日は……
タカシ そうだよ、土曜日は……
ミツキ いゝなあ、土曜日……
タカシ そのうちくるよ、土曜日……
ミツキ そっか……
タカシ そうさ……
ミツキ でもさ、いつまで待てば……
タカシ たったの五日じゃないか……
ミツキ いつか……イツカって、いつかとおくみたい……
タカシ だいじようぶ……
ミツキ なにが……？
タカシ とおくても、いつかあえるから……
ミツキ いつか、あえる……
タカシ どんなに変わってゝも……
ミツキ でも……
タカシ ……
ミツキ わすれちゃわないかな……
タカシ わすれても……

2 火曜日 Mardi

ミツキ

……？

タカシ

また、しりあえばいゝんだから……

ミツキ

うん……

溶暗。

明るくなると、都会からはなれた場所にたつらしい研究所の一室。

薄汚れた壁の殺風景な部屋。デスクと椅子が一脚ずつ。デスクのうえには、書籍の山。ノートパソコンが一台。

ややあって、下手からミツキが、資料の束とマグカップをもってあらわれ、資料の束を書類の山のうえに置くと、椅子にこしかける。

ミツキ

(一枚の資料をながめながら)一九六一年から七二年にかけてアポロがもちかえった月の石にふくまれるリン酸塩化合物アパタイトを新分析法により再分析したけっか、含有される軽水素と重水素の割合から、月の水分は、地球からもたらされたものではなく、彗星によってはこぼれた可能性が指摘される……

ところへ、下手から書類の束をかかえたアサノがあらわれる。

アサノ

ホシノ先生、いいかげん、内線電話ぐらいおいってくださいよ

ミツキ

だから、スカイプをつかえばいいっていつてるじゃないみんな、先生みたいにコンピューターにつよいわけじゃないんですから

ミツキ

地球はせまいのよ

アサノ

そりゃ、宇宙にくらべりゃちいさいですけどね
机のうえはもつとせまいもの

ミツキ

わたしの心はさらにせまいですよ
心のせまい男はモテないわよ

アサノ

モテる女は、心のせまい男をこきつかってもいいってんですか

ミツキ

日がな事務机に坐わりづめなひとを、健康のためにあるかせたげようっていう親切心じゃない

アサノ

すわりづめでいいんですよ、わたしは
なんなら、メールくれてもよかったのに

アサノ

だって、先生、わたしからのメールには返信してくれないじゃないですか

ミツキ

あたりまえじゃん

アサノ

いばんないでください、そんなことで
いちおう、この研究所の所長だもん

アサノ 所長のほかに、所員ひとり、事務ひとりしかいませんけど
ね

ミツキ お金でないんだもの

アサノ 財政難の時代ですから

ミツキ 公立っていても、地方独立行政法人なんて、中小企業と
いっしょよね

アサノ 本体のほうの運営費交付金も年々へるいっぽうですし

ミツキ 眼にみえる成果をしめせてつてもねえ……

アサノ ノーベル賞とってくださいよ

ミツキ ざんねんながら、ノーベル地球化学《ばけがく》賞なんて
のは存在しないのよ

アサノ とにかく、お電話ですよ

ミツキ どっから？

アサノ なんとかっていう雑誌の記者だそうですよ。ホシノ先生、

ミツキ このメールアドレスも公開してないでしたっけ

ミツキ しってる？ 世界中をとびかうメールの九〇パーセント

アサノ まだが迷惑メールなんだってさ

アサノ スпам・フィルターにかけちゃえばいいじゃないですか

ミツキ あんなの、いつまでたつても不完全でしょ

アサノ そうなんですか？

ミツキ いっそ外部から遮断しちゃうのが最善策よ

アサノ それじゃ、メールのイミがありやしません

ミツキ 二十年まえには、メールなんてなかったじゃん

アサノ 人は易きにながれるっていうじゃないですか

ミツキ 人じゃなかったら、易きにながれないのかしら……？
なにいつてんです

アサノ で、そのかかえてるのは？

アサノ 先生あての郵便物にきまつてるでしょ

ミツキ 机のうえはせまいっていったじゃん

アサノ ダメですよ、先生がちつともとりにこないんで、事務室の

ボックスがあふれちゃったんですから（ト、机のうえに郵便物の山をおろす）

ミツキ 根性のない男はモテないわよ

アサノ 紙の山かかえつづけることを、根性みせるたあいしません

ミツキ じゃあ、こんどみせてよね

アサノ そんなことよか、電話々々。取材ですよ、きつと。そっち

アサノ こそ、成果みせる機会じゃないですか

ミツキ 根性ならみせたげるのにな

アサノ どうやって？

ミツキ この部屋にとじこもって、十五年間ひととあわない

アサノ ロビンソン・クルーソーですか？ 十八世紀大英帝国植民

地主義の産物ですよ、ありやあ

ミツキ あんな落ち着きのない働き者なんてねがいさげだわ。ニー

アサノ トのヒツキーが目標だから

アサノ 厚生労働省の定義だと、ニートって、三十四歳までですが

ミツキ ね

アサノ じゃあ、三十五歳以上はなんてよぶの？

アサノ ただの「無職」ですよ

ミツキ それじゃ「求職中」と区別つかないじゃん
アサノ 厚労省にクレームでしたらどうです？
ミツキ かんがえとくわ
アサノ とにかく、電話。どんだけ広い研究所だっておもわれちゃ
いますよ（トいいながら、下手に去る）
ミツキ いいじゃん、おもわせとけば……（つづいて去る）

溶暗。

3 水曜日 Mercredi

所長室。

折り畳み椅子をもったミツキが、マユミをしたがえてはい
つてくる。

ミツキ （折り畳み椅子をひらいて、机の脇におきながら）はい、
どうぞ

マユミ ちよっと、お客さんに、折り畳み椅子なわけ？

ミツキ だって、客なんてこないもの、こゝ

マユミ そうなの？

ミツキ 業者さんなんかは、事務室で間にあうし

マユミ まあ、たしかに、ちよっと辺鄙なところではあるわね

ミツキ むかしは、宇宙科学部門もあったのよ、こゝ

マユミ どういうこと？

ミツキ ようするに、天体観測もやってたってこと

マユミ 空気がきれいなところってわけか

ミツキ でも、リストラされちゃってさ

マユミ あんま、儲かんなさそうな部門だしね

ミツキ どっちがいい、コーヒーと紅茶？

マユミ どっちでも

ミツキ （出ていきながら）ま、コーヒーしかないんだけどね

マユミ なら、訊かないでよ

ミツキの声 いちおう、儀礼として

マユミ 礼儀じゃないんだ

ミツキの声 いまさら礼儀とかって仲でもないでしょ

マユミ 変わらないわね

ミツキの声 なにが？

マユミ 学生んときもコーヒー党だったじゃない、ミツキって

ミツキの声 そうだっけ？

マユミ そうよ。ケーキバイキングとかいっても、かならずコーヒ
ーのんでたし

ミツキの声 ニンゲン、そうかんたんには変わらないってことよ

マユミ あれから十五年もたつのにね

ミツキ （マグカップをふたつもつてもどってくる。カップの種類

はばらばらだ。ひとつをマユミにわたし）はい。置くところ
ないから、もっててね

マユミ （受けとって）ほんと、接客システム皆無ね

ミツキ

紙の書類をつくらず、もたず、もちこませず、っていう「非紙三原則」を堅持してるはずなんだけど

マユミ

日本といっしょでアヤしいわね

ミツキ

事務がかってにもってきちゃうのよ

マユミ

事務って、さっきの男の人？

ミツキ

総務および経理担当。ときどきは営繕もやってる

マユミ

営繕で、建物の補修とか？

ミツキ

はやい話が、なんでも屋ね

マユミ

ほんとに小所帯なのね、こゝ

ミツキ

だから、リストラされたんだってば

マユミ

ちゃんとした研究やってんのに

ミツキ

自分の研究がちゃんとしてないとおもってる研究者なんていないから

マユミ

いいなあ、研究者

ミツキ

気楽ではあるわね

マユミ

ミツキ、同期のなかでもピカイチだったもんね

ミツキ

「ピカイチ」なんてことば、いまどき、ひかる一平のファンでもつかわないよ？

マユミ

なにしろ、その歳で所長なもの

ミツキ

たまたま、この部門のうえの人がいなかっただけよ。ほか

マユミ

の部門はリストラされちゃったから、消去法ってわけ

ミツキ

この仕事はじめてから、ちゃんとミツキの研究にも注目して

マユミ

たんだから。

ミツキ

そのわりには、今回はじめての取材じゃん

マユミ

ミツキ、同級生と旧交を温めたいっていうタイプじゃないし

ミツキ

そりゃ、そのとおりだけど

マユミ

まあ、誌面の華っていうか、見栄えっていうか……

ミツキ

つまり、研究が地味すぎるんでしょ？

マユミ

智ノ花みたいなのシブい取り口なもので……

ミツキ

昔のお角力（すもう）さんで譬（たと）えないでくれる？

マユミ

なかなか縁がなかったってわけよ

ミツキ

そんなとこだとおもった

マユミ

こゝ、ほかに研究員は？

ミツキ

ひとり。でも、これ以上は配属されてこないわね。そのうち、こゝじたいが整理されちゃうんじゃないかな

マユミ

でも、鹹にはなんないんでしょ、公立なんだから

ミツキ

公立だったって、いまや一般地方独立行政法人の法人職員だけだね

マユミ

民間にくらべたら、ずいぶんマシでしょ？

ミツキ

くらべたことないからなあ……

マユミ

あたしの前の会社なんか、なくなっちゃったもの

ミツキ

おやまあ

マユミ

しょうがないから、なけなしの貯金はたいて専門学校いったわけよ

ミツキ

それで、科学雑誌の編集者に？

マユミ

正式の社員じゃなくて、契約ライターだけだね

ミツキ

（ポケットからマユミの名刺をとりだして）でも、有名雑

誌じゃん

マユミ それが、さいきんは、雑誌がうれない時代でき

ミツキ こんだけウェブがひろまりやあね

マユミ フリーのライターなんて、吹けば飛ぶような将棋の駒よ

ミツキ あんた、いちいち譬えがふるいね

マユミ 結婚も失敗しちゃったし

ミツキ あら

マユミ けっこうヤバいとおもわない、バツイチ・アラフォーの自

由業女子って？

ミツキ へえ

マユミ なに？

ミツキ 女子なんだ

マユミ そんなの、いったもん勝ちさ

ミツキ 苦労してんだねえ、マユミも

マユミ あたりきしやりきのコンコンチキよ

ミツキ やっぱ、古いわ、あんた

マユミ さて、本題にはいりますが(ト、マグカップを足下におき、

鞆からノートとペンをとりだす)

ミツキ はいはい

マユミ 電話でもいったけど、北海道大学とアメリカのウェスリア

ン大学とかのグループが、アポロ宇宙船のもちかえった月

の石の成分を分析して、いま月にある水は、地球から分離

したときにもってったんじゃない、月に衝突した彗星に由

来するんじゃないかっていう論文を発表したじゃない

ミツキ

北大は世界でひとつしかない同位体顕微鏡つてのをもつ
てるからねえ

マユミ まず、あの論文のかんたんな学問的意義についておうかが

いできますかしらん？

ミツキ ごく簡単にいっちゃえば、月の水が彗星由来だとすると、

地球の水も彗星からきたかもしれないって類推できるっ

てことね

マユミ でも、月の水と地球の水の成分がちがったから、月の水は、

地球の水じゃないってことになったんでしょ？

ミツキ これもおおざっぱにいっちゃうと、地球の水には二種類あ

って、地下にたまってる水と、海の水の水素の質量がちが

うのよ。つまり、ふつうの水素と重水素のちがいつてこと

ね

マユミ 重水素って、水素の同位体だっけ？

ミツキ その点について、これでも読んでいて(ト、書類の山か

ら、手品のように、いちまいの紙をぬきだして、マユミに

わたす)

マユミ 「重水素 deuterium ≒ デューテリウム」は、水素の安定同

位体であり、通常の水素は、原子の原子核が陽子ひとつな

のにたいし、重水素の原子核は陽子ひとつと中性子ひとつ

をもつ。地球上での水素と重水素の分布は、九九・九八五

パーセント対〇・〇一五パーセントであるが、海中には

重水素がおおく存在する」

ミツキ ふつうの水素でできてる水は、地球だけじゃなくて、木

星や土星にもあるの。つまり、惑星の水は、ふつうの水素の水ってわけ

マユミ じゃあ、重水素のほうは……

ミツキ 現在のところ、重水素による水が検出されているのは彗星のみ

マユミ それで、月の水が彗星から来たってわけか

ミツキ ヘール・ボップ彗星っておぼえてるでしょ？

マユミ 一九九七年に地球に最接近した巨大彗星！

ミツキ あの彗星の観測のきっかけ、ヘール・ボップ彗星には、重水素の存在する割合がおおいことがわかったの。でも、地球の海の割合と比較するとずっとおおいから、地球の海水が、ぜんぶ彗星がぶつかって地球にきたってわけでもなさそうなんだけどね

マユミ なるほどね。じゃ、つぎに、ホシノ先生のご研究についてえ、そんなの訊くの？

マユミ どうぞでしよ。解説きくだけだったら、わざわざこんなとこまでこないから

ミツキ そりゃそうね

マユミ ホシノ先生のご研究では、地球上の成分からも、彗星の衝突説が裏づけられるとか？

ミツキ よくしってるわね

マユミ いったでしよ、ミツキの研究、注目してたって

ミツキ どうせ、海外雑誌に掲載を拒否(リジェクト)されたから、ちよっと手をいれて、国内雑誌に載せたマイナーな研究よ

マユミ どうして、カッキテキな研究じゃないの？

ミツキ 考察のところがね、ちよっとデータ不足でさ……

マユミ まあ、いっぺん聞かせてよ

ミツキ ヘール・ボップ彗星の観測データから、重水素以外のいろんなこともわかったの。たとえば、彗星にはたくさん有機化合物が存在するってこともそのひとつ

マユミ 有機化合物って、たとえばアミノ酸とか？

ミツキ アミノ酸はタンパク質の構成要素だからね

マユミ ということは、彗星の有機化合物のなかには、生物の起源的なものもふくまれてるってこと？

ミツキ 「パンスペルミア説」ってのがあってしよ、地球上の生命は、宇宙からきたっていう……

マユミ そういえば、国立天文台も、アミノ酸が宇宙から飛来して、地球上の生命の起源となった可能性があるって研究を発表してたよね

ミツキ あゝ、オリオン座の大星雲の中心部で、おおきな円偏光を観測したってやつね

マユミ エンヘンコウ？

ミツキ 光ってのはランダムにゆれる電磁波なんだけど、それがまわるい形になっちゃってるばあいを、円偏向ってよぶわけそれが、宇宙からのアミノ酸に、どう関係するの？

マユミ アミノ酸の分子構造には、右型と左型があって、鏡にうつったように反対むきの構造になってるんだけど、地球上じゃ、なぜだか、ほとんどが左型アミノ酸なのよ。で、それ

は、もしかすると、太陽系は、オリオン座大星雲の中心部
みたいところで誕生して、そのあと、巨大円偏向の光を
あびたけつか、アミノ酸が左型ばかりになったつていう
のが、国立天文台の仮説

マユミ

それが、隕石なんかで、地球上にとんできたつてわけ？

ミツキ

まあ、かんたんにいっちゃえばね

マユミ

原始の海でコアセルヴェートができてとかいう説は、現在
だと、どう評価されてるの？

ミツキ

化学進化説は、無機物から有機物が発生したつてもものだけ
ど、時間的にむずかしいんじゃないかっていわれてる

マユミ

時間的に？

ミツキ

地球の年齢はだいたい四六億年でしょ。でもつて、さいし
よに生物らしきものが登場したのが、三八億年くらいまえ。

でも、たつた八億年ぽつちじや、無機物から有機物が生成
される可能性は、かぎりなくゼロにちかい

マユミ

地球外から、生物の既製品がやつてきたつてかんがえるほ
うが確率が高いつてことか

ミツキ

それと、さっきのアミノ酸が左型ばかりつていうのが、
説明しにくい。ふつうは左右どつちのタイプも生成される

はずだからね

マユミ

ホシノ先生によれば、生命は彗星からきたと？

ミツキ

それか、隕石ね

マユミ

その証拠が、地球の地面に存在するわけだ。注目すべき発
見じゃない

ミツキ

でもないのよ。有機化合物の組成が、彗星のと一致したつ
てだけなんだから

マユミ

それつて、地球上じやめずらしい組成なんでしょ？

ミツキ

まあね

マユミ

だったら

ミツキ

データ不足

マユミ

でも——

ミツキ

やつぱ、だめだよ、これ、記事になんないね、平凡すぎて

マユミ

さ

マユミ

……

ミツキ

……

マユミ

そう

ミツキ

そうそう

マユミ

(ト、ノートを閉じて、マグカップを手にとる) しかたな

ミツキ

いか

ミツキ

しかたないの

マユミ

世の中、おおいよねえ、しかたないこと

ミツキ

もうしわけない

マユミ

ほかにもネタはかんがえてるから

ミツキ

それはそれは

マユミ

ミツキのことだもん

ミツキ

そんな評価なんだ

マユミ

完璧主義者

ミツキ

評価委員会に抗議をもうしいれたいかも

マユミ とつくの昔に解散済みよ
ミツキ 完璧なんかじゃないんだけどな
マユミ この部屋だつて
ミツキ 部屋が？
マユミ ミツキらしい
ミツキ そう？
マユミ 整理整頓
ミツキ モノがないだけでしょ
マユミ モノがたまるのきらいだったもんね
ミツキ だつて、鬱陶しいじゃん
マユミ 電話ぐらいおけばいいのに
ミツキ せまいのよ、机のうえが
マユミ せまいつて
ミツキ だつて、いやじゃない、なんか
マユミ なにが？
ミツキ 電話つて、待つでしょ
マユミ そりゃ、そうよ、電話だもん
ミツキ 待ちくたびれることだつてあるとおもうんだよね
マユミ だれが？
ミツキ 電話が
マユミ 電話が？
ミツキ そう、電話が
マユミ なに、それ
ミツキ でも、いちばんの理由は、机のせまさ

マユミ ……
ミツキ ……
マユミ ふうん……
ミツキ なに……？
マユミ 意外
ミツキ なにが？
マユミ ミツキでも、電話をまちながら悶々とした夜があるつてこ
ミツキ とか
マユミ あるわよ、それくらい
ミツキ だつて、モテモテだったじゃない
マユミ そんなんじゃないつてば
ミツキ 訳ありつてわけだ
マユミ まさか
ミツキ 信じらんないな
マユミ ……
ミツキ ……
マユミ あのさ……
ミツキ ん……？
マユミ わたし、おにいちちゃんがいたじゃん
ミツキ あ、タカシさん、おんなじ研究室の院生だった
マユミ うん
ミツキ ミツキと四つちがいったたよね、わたしたちが四年生のと
マユミ きに、ドクターの二年生で。そういえば、学園祭で、研究
ミツキ 室でだしてた模擬店で、いっしょに店番したことがあるよ

ミツキ 研究の追っかけ……

マユミ ほんとだってば……

ミツキ はいはい

マユミ (コーヒーを飲みほすと) これ、ごちそうさま

ミツキ どういたしまして

マユミ じゃ……

ミツキ もう、帰るの？

マユミ 研究のジャマしちやわるいから。カップ、あらっとう

マユミ か？

ミツキ いいからいいから、おいといて

マユミ じゃあ、ここおいとくね

ミツキ うん

マユミ あ……

ミツキ ……？

マユミ おしえてよ、携帯

ミツキ このメールアドレスおしえたじゃん

マユミ これからも、ちよくちよく相談にのつてもらいたいんだけど……

ミツキ ……

ミツキ それはかまわないけど……

マユミ 赤外線つかえる？ もしかして、iPhone？ それとも

マユミ androidだったりして——

ミツキ もってないのよね、携帯……

マユミ え、うそ

ミツキ ほんと

マユミ 信じらんない

ミツキ でも、ほんと

マユミ いまどき

ミツキ いやあ

マユミ こんな辺鄙なところではたらいてんのに

ミツキ わるうござんしたね

マユミ さすが、ミツキだわ

ミツキ どういうことよ、それ

マユミ いっしゆのホメことばよ

ミツキ どころが

マユミ むかしから、ふつうのひとつとズレてはいたけど

ミツキ ひどい

マユミ 携帯もってないとはね

マユミ ちよつとね、いまは必要ないっていうか

マユミ へえ

ミツキ どうせ変人ですから

マユミ あ、居直った

ミツキ ほらほら、帰るんでしょ

マユミ おじゃまさま

ミツキ じゃ

マユミ は去る。

ミツキは、マユミを眼で見送ったついでに、一冊の本に眼をとめ、ひらいて読みはじめる。

ミツキ

ヘール・ボップ彗星。一九九五年七月二三日、アメリカの
アラン・ヘールとトーマス・ボップによりべつべつに発見
される。彗星核およそ五〇キロメートルの巨大彗星。一九
九七年三月二二日に、地球に最接近し、前後八週間にわた
って、ゼロ等級以上のあかるさをほこる。このおり、彗星
ではじめて観測された有機化合物の存在や重水素の割
合など、さまざまの新発見をもたらした。約二千五百三十
年の公転周期をもち、つぎの最接近は、西暦四五三〇年頃
とされる……

ト、紗幕ごしに、十四年前のタカシの姿がうかびあがる。

タカシ

おぼえてる……？
なに……？

タカシ

十一年前のこと……

ミツキ

十一年前……

タカシ

一九八六年二月……

ミツキ

もちろんだよ……

タカシ

そうだね……

ミツキ

わすれられないよ……

タカシ

でも、もうひとつあった……

ミツキ

あ、ハレー彗星……

タカシ

ぼくが高一で……

ミツキ

わたしは小六……

タカシ

あのときも寒かったけれど……

ミツキ

それより、街のあかりのせいで、ちつとも星がみえなくつ
て……

タカシ

あのときのハレー彗星は、暗かったから……

ミツキ

わたし、すつごく悔しくて……

タカシ

悔し泣きしてたぐらいだもんな……

ミツキ

つぎはぜつたい、バッチリ見てやるぞって……

タカシ

つぎって、二〇六一年……？

ミツキ

七十六年周期じゃねえ……

タカシ

でも、こんどの彗星は明るいから……

ミツキ

こんなに明るいのって、珍しいんだよね……？

タカシ

まあね……

ミツキ

いまって、マイナス一等級なんですよ……？

タカシ

そう、このところずつとね……

ミツキ

おつきいでしょ……？

タカシ

そう、おつきいよ……

ミツキ

どれくらいだっけ……？

タカシ

どれくらいだとおもう……？

ミツキ

富士山くらい……？

タカシ

もつとおおきいな……

ミツキ

四国くらい……？

タカシ

そこまでおおきくないよ……

ミツキ

うーん……

タカシ

地球科学科のくせに……

ミツキ 専門は化学《ばけがく》だもん……
タカシ 地球の物質は、彗星からきたのかもしれない……
ミツキ あるある、そういう説……
タカシ ほら、彗星のことだって……
ミツキ まあ、追々……
タカシ 命短し、恋せよ少女《おとめ》……
ミツキ なに、それ……？
タカシ ちがった、少年老い易く学成り難し……
ミツキ ちゃんとしてるもん、勉強……
タカシ へえ……
ミツキ それより、おおきさ……！
タカシ 核の直径は約五〇キロメートル……
ミツキ ピンとこないよ……
タカシ 琵琶湖くらいかな……
ミツキ ピンとこないなあ……
タカシ ちなみに、ハレー彗星の核は約一六キロ……
ミツキ それとくらべたら、おおきいよね……
タカシ いまだって、二億キロはなれてるのに……
ミツキ やっぱりピンとこない……
タカシ 地球五千周分……
ミツキ 目がまわるほどの距離ってことかあ……
タカシ いや、そんなにおくはない……
ミツキ だって地球五千周だよ……
タカシ 光速なら〇・七秒……

ミツキ 一瞬かあ……
タカシ 一瞬だよ……
ミツキ じゃあ、地球からいちばんとおいときの距離は……？
タカシ 五百五十四億キロメートル……
ミツキ 光だと……？
タカシ たったの三分……
ミツキ カップラーメンできるよ……
タカシ ウルトラマンも怪獣たおせるな……
ミツキ でも、みじかいね……
タカシ だから……
ミツキ ……？
タカシ さきにいつとくよ……
ミツキ あれ、いっしょにいってくれないの……？
タカシ あそこ、混みそうだから、さきにいつて、場所とつとかな
いと……
ミツキ えー、わたしひとりで……
タカシ テラダとかもいくから……
ミツキ でも、夜道だよ……
タカシ ミツキならだいじょうぶ……
ミツキ そんな勝手に……
タカシ おとうさんとおかあさん……
ミツキ え……？
タカシ じゃなかった、おじさんとおばさんに、ちゃんといつてく
るんだよ……

ミツキ あたりまえじゃん……
タカシ じゃあ……
ミツキ うん……

消えるタカシ。
本をもどし、マグカップを手にとると、ぼんやりと窓に眼をやるミツキ。
暗転。

4 木曜日 Jeudi

ミツキが、あいかわらずマグカップをもつてはいつてくる。椅子に腰かけ、ノートパソコンをひらくと、受信したメールをよみはじめるミツキ。
ところへ、アサノが書類の山を抱えてはいつてくる。

アサノ 先生、記事になんなかったんですって？

ミツキ まあね

アサノ どうして、Why? 《ホワイ》、Warm? 《ヴァールム》、Pouquoi? 《プルコワ》、なんででんねん、こんな広報のチャンスを

ミツキ そんな、四カ国語プラス一方言できなくなっても
アサノ そんだけショックなんですよ

ミツキ しょうがないじゃん、あたらしいネタじゃなかったんだから

アサノ にしたって、なんか説明のつけようがない

ミツキ うるさくいわれてんの、ごぞんじなんでしょ、もつとメディアに露出しろって

アサノ じゃあですなえ——

ミツキ だって、しょうがないじゃん

アサノ 所長がこれじゃなあ

ミツキ あーあ

アサノ なに勝手に嘆息してるんですか

ミツキ 嘆息ぐらい勝手にさせてよ

アサノ 働かざるモノ食うべからず、宣伝せざるモノ嘆息すべからずですよ

ミツキ むちゃくちゃやがな

アサノ でも、あのツキシロさんてえ記者のかた、先生の同級生なんですしょ？

ミツキ そうだけど

アサノ なら、同級生の誼《よしみ》で、これからもちよくちよく取材してもらいましょ！

ミツキ と、いわれてもねえ、こんなリストラ寸前の部署じゃあ……

アサノ だからこそそのメディア露出でしようが

ミツキ そんな、たいした研究してないもーん
アサノ なに、こどもが拗ねたようなこといつてるんですか、自信もってくださいよ

ミツキ 自信ねえ……

アサノ それに、解説なら、自前の研究じゃなくっていいし

ミツキ えー、他人の禪で相撲をとるのー？

アサノ そうですよ、他人の禪で、右四つ、左四つ、両差し、突っ張り、このさい、土俵入りから弓取り式まで、相撲とりまくっちゃってください

ミツキ ムリムリムリ、わたし、相撲興味ないし

アサノ あゝ

ミツキ なに勝手に嘆息してるのよ

アサノ 嘆息ぐらい勝手にさせてください

ミツキ だめ

アサノ なにゆえ？

ミツキ 周囲の士気がさがるから

アサノ 周囲の士気がさがるから

アサノ 周囲の士気がさがるから

アサノ か

ミツキ もっと困ってほしいわけ？

アサノ 箱入り息子だったんですよ、これでも

ミツキ 箱入り息子だったら、こんなところで油売っていいの？

アサノ おかげさまで、こんな研究所の事務量なんて、たかがしれていますから

ミツキ そうですか

ミツキ そいつあめでたいわね

アサノ これで、世紀の大発見でもありやあ、べつなんでしようが

ミツキ ねえ

アサノさんの仕事をふやさないように、せいぜい気をつけ

ミツキ といてあげるわ

アサノ だから、所長……！

ミツキ あ、そういえば……

アサノ なんですか？

ミツキ きょう、くるよ、彼女

アサノ 彼女？

ミツキ ツキシロさん

アサノ え、あの記者さん？

ミツキ そう

アサノ 取材ですか？

ミツキ 惜しい

アサノ 原稿打ち合わせ？

ミツキ もうひと声

アサノ 特集企画の相談？

ミツキ さんねん

アサノ なんなんですか、いったい

ミツキ 雑談

アサノ ザツダン？

ミツキ うん

アサノ 雑談で、あの雑談？

ミツキ Yes. 《イエス》

アサノ 無目的的に、たゞべらべらしゃべる、あの雑談？

ミツキ Oiii.《ウイ》

アサノ とりとめもないことを、へらへらしながらしゃべる、あの雑談？

ミツキ Ja.《ヤー》

アサノ 愚にもつかないことを——いや、もうやめましょう

ミツキ 賛成

アサノ ま、もしかしたら、雑談から生まれる企画ってのもあるかもしれないからねえ

ミツキ わたしとマユミにかぎって、そんなことはないとおもうけど

アサノ なら、わたしも一緒にしたりなんかしてみちゃったりして

ミツキ ……

アサノ 部外者おことわり

ミツキ 心がせまいなあ

アサノ この机よかひろいとおもうけどね

ミツキ 拡張工事したらどうです

アサノ くだらないこといつてる間に、ほらほら、あっちでなんか鳴ってるよ

ミツキ おっと、やべ。もう、なんでここに内線がないんだかなあ

アサノ ……

ミツキ 去るアサノ。

アサノ それを見やって、ミツキは、マユミから受信したメールを

読みなおす。

それから、机のうえの書類をかたづけはじめるとミツキ。中身をたしかめながら、書籍は机上の小型書架へ、書類はすべて、ゴミ箱になげこんでいく。

ト、マユミがあらわれる。

マユミ あ、やってるやってる

ミツキ なに？

マユミ かたづけ

ミツキ いったでしよ、非紙三原則

マユミ 徹底してるわけだ

ミツキ アサノさん、すぐ書類もってきちやうんだから

マユミ ことわればいいのに

でも、あの人、書類が人生みたいになっちゃってるとこあるし

書類なんかには人生かけたくないなあ

で、きょうはなんの用？

探偵

ミツキ はあ？

マユミ ミツキのこと、探ろうとおもって

ミツキ だれが依頼したのよ

マユミ ミツキじしん

ミツキ なに、それ

マユミ どうして、彗星にこだわるのか

ミヅキ だって、地球化学《ばけがく》だもん

マユミ べつに宇宙に眼をむけなくたっていいわけでしょ？

ミヅキ そりゃ、そういうひともあるけど

マユミ そこで、調査ってわけ

ミヅキ そんなにヒマなの

マユミ もちろん、仕事の合間をぬって

ミヅキ わたしは、そんなにヒマじゃないから

マユミ まあ、そう、つれないこといいなさんなって

ミヅキ (あきれたように椅子に坐わると、ノートパソコンを開くと、メールの確認をはじめめる) で？

マユミ (折り畳み椅子を出してきて、腰かける) ミヅキ、ブラコンでしょ？

ミヅキ は、ぶらんこ？

マユミ 基本的なボケはいゝから。ブラコン、ブラザー・コンプレックス

ミヅキ なんでよ

マユミ つまり、わたしの調査によると、ミヅキが地球の成分の研究やっつてんのに、彗星にこだわるのは、ずばり、タカシさんの影響！

ミヅキ そんなこと、偉そうにいうほどのもんじゃないよ

マユミ やっぱ、認めるんだ

ミヅキ だって、おにいちちゃんとおんなじ研究室はあったの、おにいちちゃんの影響だし

マユミ でも、やっつてる研究は、タカシさんは宇宙系で、ミヅキは

地球系じゃん

ミヅキ べつに、おにいちちゃんの真似がしたくて地球科学科にいったわけじゃないもの

マユミ なのに、なぜ、彗星がらみの研究をするようになったのか

ミヅキ たまたま、知り合いの研究者にさそわれたからよ

マユミ そんな、夢もロマンもない回答

ミヅキ サイエンスには、夢もロマンもありません

マユミ サイエンス・ライターには、夢もロマンも必要なの

ミヅキ なにゆえに？

マユミ でなきや、読者を誘惑できないでしょ

ミヅキ でも、真実は、そうじゃないんだから

マユミ おっと、真実なんて、時間や空間しだいに変化するってえ

ミヅキ のは、研究者なら、先刻ご承知のことでごさんしょう？

マユミ どうして、口調が古くなるのさ？

ミヅキ ニュートンの古典力学が真実なのは、アインシュタインの

マユミ 一般相対性理論の特殊条件下でのみ。けれど、相対性理論

の真実も、ブラックホールの内部ではウソになる。そこで、

あらたに量子重力理論が要請されるってわけですあ

ミヅキ ざんねんながら、理論物理学方面はさっぱりだから

マユミ じつは、わたしも、受け売りで

ミヅキ なんだ、そりゃ

マユミ ようするに、真実はいつもひとつじゃないってことよ

ミヅキ それには同意するけどね

マユミ そこであかされる、もうひとつの真実

マユミ ……

ミツキ いくらかんがえても堂々めぐり

マユミ ……

ミツキ いつまでたつても、あの日からさきにすゝめないよ

マユミ ……

ミツキ ……

マユミ ミツキ……

ミツキ ……

マユミ わたし……

ミツキ ……

マユミ そんなつもりじゃなかったんだけど……

ミツキ ……

ところへ、書類の山をかかえてやってくるアサノ。

アサノ おやあ、どうしましたあ？

マユミ あ、いえ、その……

アサノ なんですか、なんか、深刻そうなオハナシですか？

マユミ わたしが、ミツキ——ホシノ先生のおにいさんのことで、

ちよつと……

アサノ あゝ、あの天才肌のホシノ・タカシさんね

マユミ ごぞんじなんですか？

アサノ わたしも、この手の事務ばっかり異動してたんで、お噂は

マユミ じゃあ、いなくなられたことも？

アサノ

もちろんですとも、あれでしょ、ヘール・ポップ彗星の最
接近日の前日の夜に

マユミ おくわしいですね

アサノ それもこれも、ホシノ先生に、快適な研究環境を提供して、

バリバリ研究成果をあげていたとくためじゃないですか、

ねっ？

マユミ ねっ、つていわれても

アサノ おおかた、ツキシロさんのお話しも、その手のヤツなんで

しょ？

マユミ ま、まあ……

アサノ あれですよ、ホシノ先生のおにいさまはね、ヘール・ポッ

プ彗星に乗っていったんですよ

マユミ はあ？

アサノ だって、彗星の研究者ですしね

マユミ 無理矢理にもほどがありませんか、その理屈？

アサノ それに、理由はほかにもある

マユミ どんな？

アサノ そんなもん、オールトの雲だかなんだかの、宇宙のどこや

らで、エントロピーの海に溶けちゃってるかもしれないと

ころの、ホシノ先生のご両親を探しにでられたに決まって

るじゃありませんか

マユミ 決まってるって……

アサノ ツキシロさんも、ご同級でいらしたんだから、ごぞんじで

しょ？ ご両親をはやくに亡くされてるの？

マユミ そりゃ、まあ……

アサノ となりやあ、もう、答えはひとつに決まってまさあ

マユミ なぜ？

アサノ 愛ですよ、愛。愛こそはすべて、All you need is love ですよ（ト、「ゴンドラの唄」を口ずさむ）

マユミ それ、ビートルズじゃありませんけど

歌いながら去るアサノ。

マユミ なに、あの人……

ミツキ （顔を伏せたまま、さつきから、くすくす笑っている）

…

マユミ ミツキ……

ミツキ もう、あのバカ親父

マユミ で、でも、ちょっと、心惹かれなかった、事務員さんの説？

ミツキ なにいつてんの、マユミまで

マユミ ほら、だって、なんていうか、夢とロマン

ミツキ マユミって、むかしからそうだった

マユミ なにが？

ミツキ 理系のくせに、不思議大好き人間

マユミ なにいつてんの、これでも、ちゃんとサイエンス・ライター

ーとして——

ミツキ オカルト雑誌とかのほうに向いてんじゃないの

マユミ わたしのどこがオカルト向きなのよ

ミツキ 夜中に口笛ふく？

マユミ ふかない

ミツキ 出がけに爪をきる？

マユミ きらない

ミツキ 節分には恵方巻たべる？

マユミ たべる……かも

ミツキ ほーら、迷信好きだ

マユミ 恵方巻はともかく、まえのふたつは

ミツキ マユミ、そっちの方が、おもしろい記事かけるんじゃないかな

マユミ かない

ミツキ 猫が顔をあらったら

マユミ 傘をもつてでる

ミツキ 親に似てゝも

マユミ 夜蜘蛛は殺せ

ミツキ ほら

マユミ うーん

ミツキ でしょ

マユミ じつは

ミツキ なに？

マユミ ちよつと変な話を耳にしたんだけど

ミツキ ほら、オカルトだ

マユミ 科学関係のネットの裏掲示板みたいなのがあって、そこで

ちよつと話題になってるネタでさ

ミツキ ソースからして怪しいじゃん

マユミ まあ、聞いてよ

ミツキ はいはい

マユミ それがね、機械が人間に化けてるってハナシ

ミツキ ロボットとかアンドロイドじゃないの？

マユミ それがさ、打ち棄てられた扇風機が、人間の姿になって、夜な夜な

ミツキ 九十九神 ≡つくもがみ≡じゃあるまいし

マユミ なに、ツクモガミって？

ミツキ 日本じゃ、ながーくつかった器物は、霊魂がやどるって言い伝えがあるのよ

マユミ それって、草履とかお釜とかのハナシでしょ

ミツキ 現代の九十九神は、家電品にも宿るのよ

マユミ まさか、そんなオカルトな

ミツキ じゃあ、どうして扇風機が人間になるのさ？

マユミ そこはそれ、なにやら未知のバクテリアが

ミツキ そっちのほうがおカルトじゃん

マユミ じゃあ、どうして噂に？

ミツキ 都市伝説ってやつでしょ、口さげ女とか、高速で走るおば

マユミ あさんとか

ミツキ 科学的に説明できないかなと

マユミ ありえない

ミツキ 断言できるんだ

マユミ あたりまえでしょ

マユミ 科学的根拠は？

ミツキ レアメタルが必要だもん

マユミ レアメタル？

ミツキ 電子基盤とかにふくまれてる、あれ

マユミ 扇風機にはないのか

ミツキ ふるいタイプにはね

マユミ でも、どうしてレアメタル？

ミツキ それより、マユミは、信じてるの、その噂

マユミ まっさか

ミツキ あやしい

マユミ どうして？

ミツキ マユミの趣味はバレてるもん

マユミ まるで人を不思議大好き人間みたいに

ミツキ 不思議大好きじゃん

マユミ いやいや

ミツキ ふうん

マユミ なによ

ミツキ 証拠みせられたら？

マユミ 証拠？

ミツキ そう、証拠

マユミ そりゃまあ、科学的証拠なら

ミツキ じゃ、見る？

マユミ じゃ、見るって、ミツキ、アラフォーの不思議ちゃんなんて、イタいだけだよ

ミツキ そもそも、生物と無生物の境界線はどこか

マユミ わすれちゃったよ、そんなテツガクテキな授業内容

ミツキ たとえば、ウイルスは、細胞核をもつてないから、生物とはみなされない

マユミ え、そうだったっけ

ミツキ けれども、デオキシリボ核酸もしくはリボ核酸をもち、生物を媒介物として、遺伝子を複製する

マユミ そういわれよば、そうだったような

ミツキ ある種の有機化合物は、金属、とりわけレアメタルと反応して、その金属のもっている記憶を再現する。プラスチックのぶぶんは、炭素分子の再結合が再帰的に生ずることで、

金属と融合、可塑性と柔軟性をそなえた高分子化合物が合成されて――

マユミ ごめん、ムリ。ついていけない

ミツキ ようするに

マユミ ……?

ミツキ 金属から生物が合成できるってわけ
すると?

マユミ 金属、とりわけレアメタルを媒介として、地上の生物を模倣した生き物が誕生する

ミツキ ……

マユミ ……

ミツキ ……

マユミ えーと、簡単にいうと?

ミツキ 家電品などから生き物が生成します

マユミ ウソ

ミツキ ほんと

マユミ 信じらんない

ミツキ でしょうね

マユミ ジャパネットたかたの社長とか、細川茂樹はしってるのだからか

ミツキ しらないんじゃないかな

マユミ 大発見じゃない

ミツキ もしかするとね

マユミ そして、大スクープだ

ミツキ それはどうか

マユミ どうして?

ミツキ あんまり宣伝するとき

マユミ なにいつてんの、いろんなイミでチャンスでしょうが

ミツキ ていうか

マユミ 証拠は?

ミツキ こゝに

マユミ どこに?

ミツキ 眼の前

マユミ へ?

ミツキ わたしじしん

マユミ だって

ミツキ さいしよはね、なんか珍しい鉱物だなおもってたんだけど、調べてみたら、その表面でもしろいアミノ酸重合

反応がおこってよさ

マユミ おもしろいとかいうレヴェルなの、それ

ミツキ たまたま、ちかくにあつた携帯電話を実験素材にしてみた

ら、その持ち主が生成されたってわけ

マユミ それって

ミツキ そう、わたし

マユミ じゃあ、元のミツキは？

ミツキ 生成のときに、融合しちゃった

マユミ えー！

ミツキ へっへっへっ

マユミ てことは、いまは

ミツキ 携帯電話人間

マユミ ……

ミツキ ……

マユミ ちよつと目眩《めまい》がするかも

ミツキ けっこう便利なもんよ、携帯もたずにすむって、置きわす

れることないし

マユミ だって、ミツキ、携帯番号おしえてくれなかったし

ミツキ もつてないことにしないと、携帯みせて、つていわれたと

きにこまるのよ

マユミ で、でも、そのこと、研究所のひとは？

ミツキ この研究所の人間は、みんなね

マユミ ということは、まさか

ミツキ そう、じつは

マユミ あの事務員さんも？

ミツキ コピー、プリンタ、ファックスの複合機

マユミ そんなもんが

ミツキ おかげで、プレス発表とかにいつそうウルサくなっちゃっ

てさ

マユミ なるほど

ミツキ おまけに、紙たくさん喰っちゃあ吐きだすし

マユミ それはちよつと

ミツキ だいじょうぶ、人前じゃやんないから

マユミ そういう問題なの

ミツキ でも、前より紙がふえたきがする

マユミ もうひとりの研究員さんも？

ミツキ 彼はDVDプレーヤー

マユミ DVDプレーヤー？

ミツキ 休みの日には重宝してるみたいだけど

マユミ そうなんだ

ミツキ 若いからね

マユミ はあ（納得）

ミツキ このごろは、Blu-ray Disc 《ブルーレイ・ディスク》プレ

マユミ ーヤーを買うべきか、なやんでるみたい

ミツキ 深刻なような、滑稽なような

マユミ ほら、プライドとかもあるみたいだし

ミツキ で、そのさきは？

マユミ まだ

マユミ じゃあ、この研究所内だけってことね

ミツキ いまのところ

マユミ もしかして、その有機化合物、伝染物質じゃないでしょうね？

ミツキ それはないんだけど

マユミ なら、どうして、ミツキ以外のひとも？

ミツキ おねがいされちゃってさ

マユミ おねがい？

ミツキ この研究所、研究費も人件費も減らされてるっていったでしよ

マユミ 県の税金収入も減ってるみたいだしねえ

ミツキ もしかすると閉鎖されるかもしれないんだ

マユミ そうなんだ

ミツキ それで、研究にも希望が見いだせなくてさ

マユミ でも、誠にはなんないって

ミツキ どっかに転属されても、研究職じゃなくなる可能性もあるらしくって

マユミ そんな

ミツキ あしたになればお休みだって、たのしいことかんがえようとするんだけど、いつまでたってもあしたがこない気がするかんじ

マユミ ……

ミツキ 事務のアサノさんは、好奇心からみたいなのもするけど
マユミ 並々ならぬ好奇心ね

ミツキ アサノさん、もともとから、ちよつと人間ばなれしてるところがあったから

マユミ 恰好の広報宣伝の対象なのに

ミツキ さすがに、じぶんがなつちやうとね

マユミ 残念すぎだわ

ミツキ じぶんでもいつてた、アサノさん

マユミ その有機化合物って、ミツキが見つけたんでしょ？

ミツキ 表面のアミノ酸重合反応はね

マユミ てことは、鉱物のほうは？

ミツキ わたしじゃないの

マユミ じゃあ、だれが？

ミツキ それがさ、じつは、おにいちゃんなんだ

マユミ タカシさん（こ）

ミツキ そう。いなくなる年のまえの年末あたりから、採取した石の研究をはじめた

マユミ あゝ、わたしも見たみた、その論文

ミツキ でも、論文にしたのはほんの二、三本で、だいぶぶんは、

マユミ たんなる未発表のデータだけ

ミツキ それが？

マユミ マユミが取材にきたきつかけの研究あったでしょ

ミツキ あのデータ不足っていつてたやつ

マユミ あの研究のとちゆうで、そういえばって思いだして

ミツキ タカシさんのデータを、研究の資料にした？

マユミ そう

マユミ そしたら
 ミヅキ こんなけっかに
 マユミ なんとまあ
 ミヅキ おにいちゃんには、びっくりさせられどおしよね
 マユミ いや、ミヅキにも
 ミヅキ あら、そう？
 マユミ タカシさんて、天才的だったよね？
 ミヅキ まあ、じぶんの兄をほめるのもただけど
 マユミ ということは、ミヅキのやりそうなことは、とっくにやっ
 てたりしない？
 ミヅキ どーせ、わたしは、平凡な科学者ですよ
 マユミ いや、そういうイミじゃなくって
 ミヅキ じゃあ、どういう——あ、そうか
 マユミ そうよ
 ミヅキ おにいちゃんも、このアミノ酸重合反応に気づいていた
 マユミ そして、当然
 ミヅキ 機械と生物を融合させた
 マユミ きつと、そうだよ
 ミヅキ じゃ、おにいちゃんも、家電人間？
 マユミ いや、家電品かどうかは
 ミヅキ レアメタルが使用されてないよね
 マユミ そして、データだけをのこしていったってことは……
 ミヅキ わたしに、みつけさせるため……？
 マユミ そりゃ、やっぱ、そうでしょ、おんなじ研究室だし、妹だ

ミヅキ し、蓋然性はたかいもの
 マユミ でも、どうして、そんなことを
 ミヅキ もちろん、ミヅキにおんなじ研究させるためでしょ
 わたしに？
 マユミ そして、あとを追わせる
 ミヅキ そんなまどろっこしいことする必要が
 マユミ そこが、それ、ミステリってわけよ
 ミヅキ せいぜいB級SFってとこね
 マユミ おのずから、そこへたどりつくように、布石をうつ
 ミヅキ マユミ、ゲームのやりすぎでしょ
 マユミ そうだ！
 ミヅキ なによ？
 マユミ もしかして、通信能力をつけさせるためじゃない？
 ミヅキ 通信能力？
 マユミ 携帯人間なんでしょ、ミヅキ
 ミヅキ それはたまたま
 マユミ タカシさんのことよ、シンボウエンリョつてもんがあるに
 きまつてるじゃん
 ミヅキ マユミ、おにいちゃんのこと、買いかぶりすぎかも
 マユミ たとえば、おんなじ携帯とかさ
 ミヅキ あのころ、携帯なんてあったっけ
 マユミ PHSのほうが普及してたかも
 ミヅキ だよねえ
 マユミ そんなことより、なんか機械だったら、通信できるかもし

れないじゃん

ミツキ

そりやまあ、高分子化合物の Quantum entanglement ≪クアンタム・エンタングルメント≫、つまり量子もつれを利用すれば、理論的には、時空間を越えた通信や物質転送が可能ではあるけれども……

マユミ

ほら、できそうじゃん、なんだかよくわかんないけど……でも、もし掃除機とか冷蔵庫とかだったら？

マユミ

タカシさんて、そんな趣味のひと？
わたしのしるかぎり、ちがうとおもう

ところへあらわれるアサノ。

マユミ

あ、複合機

アサノ

は？
いえ、なんでも

アサノ

えーと、お話し中のところ恐縮ですが、ホシノ先生に、本体の方からお電話が……

ミツキ

すぐいくからって
あ、わたしなら、もう帰るから

マユミ

そう？
ホシノ先生もおいそがしいでしょうし

ミツキ

まあね
じゃあ

ミツキ

うん

出ていくマユミ。

アサノ

(あとを追いながら) ツキシロさん、なんかメディアにのるようなネタありませんかね？

マユミの声

むしろかしいところよねえ
そこをなんとか

アサノの声

ミツキだけに明かり。

ミツキ

一九九七年三月二日金曜日、午後七時。全天でもひとときわあかるく輝くヘール・ボップ彗星が、西北の空ひくく、アンドロメダ座とカシオペア座のあいだを、尾をひいて飛んでいた。

兄は、おなじ研究室のテラダさんたちとともに、見晴らしのいゝ丘陵地帯の頂きで彗星観測する予定をたてゝいた。当日ヘール・ボップ彗星の最接近日の前日にあたり、観測に適した土地には人手が予想されたため、兄は、妹であるわたしにはさきにくとつげ、当時いっしょに住まわせてもらっていた伯父夫婦の家をでた。

だが、別ルートでむかったテラダさんたちが、やゝおくれて午後六時四十五分ごろに観測地点についたときには兄の姿はなく、道に迷ったわたしが、午後七時十五分ごろに到着したときにも、兄は姿をみせていなかった

ト、紗幕の背後にタカシの姿が浮かびあがる。

ミツキ おにいちゃん……

タカシ ごめんごめん……

ミツキ なにしたの……

タカシ ちよつとね……

ミツキ テラダさんたち、心配してたよ……

タカシ あゝ、あいつらなら、ちゃんといつとくから……

ミツキ おにいちゃん、ときどき、わけわかんないよね……

タカシ そうか……?

ミツキ おとうさんとおかあさんが死んでから……

タカシ かもな……

ミツキ しつかりしてよね、我家は、わたしたちふたりきりになっ

ちやっただから……

タカシ そうだな……

ミツキ だからさ……

タカシ ミツキ、髪の毛のびたな……

ミツキ そう……?

タカシ 彗星の語源で、しってるか……?

ミツキ 箒みたいに見えるからでしょ……?

タカシ コメットのほうだよ……

ミツキ しらないよ、そんなブンガクテキなこと……

タカシ ギリシヤ語の *kométes* ≪コメーテース≫ からきてるんだけ

ど……

ミツキ どういうイミ……?

タカシ 「ながい髪のこと」ってイミだよ……

ミツキ へえ……

タカシ なんか、髪をなびかせながら走りさつてく女神さまみたい

だよな、捕まえてごらんてかんじで……

ミツキ 颯爽とかけてくアスリートじゃないの……?

タカシ おれには、なんだか、捕まえなきゃいけないようなふうに見えるよ……

ミツキ ふうん……

タカシ そういえば……

ミツキ なに……?

タカシ 金曜日だよな、きょう……

ミツキ そうよ、だから、夜更かしできんじゃん……

タカシ じゃあ、ゆつくりさがすか……

ミツキ 彗星なら、もう見たんでしょ……?

タカシ べつものをね……

ミツキ べつものを……?

タカシ ほら、たいせつな……

ミツキ 失くしもの……?

タカシ そうだね……

しだいに消えていくタカシの姿。

ミツキ おにいちゃん……

タカシ ミツキは、はやくかえるんだぞ……
ミツキ まって……！

暗転。

5 金曜日 Vendredi

例によって、資料の束とマグカップをもってあらわれるミツキ。資料の束を書類の山のうえに置くと、椅子にこしかける。

ところへやってくるマユミ。

ミツキ コーヒーなら、じぶんでいれてね

マユミ あ、おかまいなく

ミツキ よくも、まいにちまいにち

マユミ 恐縮です

ミツキ もしかして、興味わいた？

マユミ なにに？

ミツキ この研究所に

マユミ ごめん

ミツキ え？

マユミ それほどでも

ミツキ あ、そ

マユミ 恐縮です

ミツキ で、あしたもくるの？

マユミ いや、あしたは

ミツキ あれ、どうして？

マユミ だって、土曜日なもの

ミツキ あ、きょうは金曜日か

マユミ しらなかつたの？

ミツキ 変化にとぼしい生活おくとってると、曜日の感覚もなくなつてきちゃってさ

マユミ さすが、浮世離れた研究者先生はちがうなあ

ミツキ でも、フリーのライターに、土日なんてあるの？

マユミ そこまで仕事に魂はうりわたさないつもりよ

ミツキ たゞのカラ威張りにしか聞こえないんだけど

マユミ まあ、ときどきは節を曲げますけどね

ミツキ 曲げるんだ

マユミ だって、土日しかあえないって研究者さんもいるんだから

ミツキ なるほどね

マユミ なんか、齷齪《あくせく》はたらいてると、いつまでも休

ミツキ みがこないかんじで、やなんだけどさ

マユミ まあね

ミツキ 公立って、ぜったい土日休みでしょ

マユミ そうでもないのよ、さいきんは

ミツキ そうなの？

マユミ それに、地方独立行政法人だし

マユミ あゝ、そっか

ミツキ で、なんの用ですか

マユミ (じぶんでコーヒーをいれながら) ちょっと彗星に興味でまくっちゃってさ、なんか、いゝネタないかなあとおもって……

ミツキ くだらない探偵ごっこなんてやってないで、そっちの方をじぶんで調べなさいよ

マユミ まあ、そうおっしゃらず

ミツキ ヨーロッパ宇宙機関とアメリカ宇宙局NASA (National Aeronautics and Space Administration) が、一九九五年に共同で打ちあげた太陽・太陽圏観測衛星SOHO (Solar and Heliospheric Observatory) っていうのが、太陽をかすめるように通過するちいさな彗星をたくさん観測してるって、しってた？

マユミ 聞いたことはあるけど

ミツキ 小型の彗星って、ふつう、何日かにひとつの割合でしか観測されないんだけど、昨年末から、毎日ふたつ以上のペースで観測されてるんだ

マユミ へえ

ミツキ この小型彗星って、もつとおおきな彗星から分裂したものとされてるんだけど、それがたくさん観測されるというところで、いちぶの天文学者たちは、巨大な彗星が太陽に接近しつゝあるんじゃないかってかんがえてる

マユミ 可能性あるの？

ミツキ あるね

マユミ じゃあ、観測したら？

ミツキ わたし天文学者じゃないしそんな

マユミ そうな

ミツキ マユミこそ、観測すれば？

マユミ よく書かせてもらってる雑誌も、天文方面はちよつとよわくて

ミツキ 天文方面がいちばん一般うけするのに、それこそ夢とロマンじゃん

マユミ こゝだけのハナシ、あんまり部数ものびてないのよね

ミツキ なら、ますます必要でしょ、夢とロマン

マユミ そうなだけでさ

ミツキ マユミお得意の不思議大好き記事なら、けっこう読者もつくかもね

マユミ だから、あれはちゃんとした裏付けが

ミツキ 紹介したげるけど、宇宙やってる先生

マユミ え、ほんと

ミツキ 母校にいる後輩

マユミ それなら、わたしも話しやすいかも

ミツキ じゃ、メールしとくから

マユミ ありがと

ミツキ どういたしまして(さっそくメールを打ちはじめ)

マユミ そういや、こゝも、むかしはあったんだっけ、宇宙科学部

門

ミツキ そうよ、でも、あんまし実利に直結しないってんで
マユミ 一般ウケするとおもうんだけどな
ミツキ 限りある資金をどう分配するか、つてことを、大所高所か
マユミ らかんがえた結果らしいよ
ミツキ だれが？
マユミ 本体の偉いさんたち
ミツキ 世知辛い世の中ねえ
マユミ まったくだ
ミツキ ところですか
マユミ なに？
ミツキ おとうさんとおかあさん
マユミ だれの？
ミツキ ミツキの
マユミ ふうん
ミツキ 一九八六年二月……
マユミ まあね
ミツキ ちょうど、ハレー彗星の接近したとき……
ミツキ ……
マユミ そうでしょ……？
ミツキ だから……？
マユミ だから……
ミツキ 彗星くるたび、我が家はひとつが消えるっていうの？
マユミ タカシさんは……
ミツキ ……

マユミ ……
ミツキ やっぱ、B級SFつてとこね
マユミ ミツキ……
ミツキ はい、このネタはもうおしまい。彗星ネタも提供したんだ
マユミ から、もういっしょでしょ
ミツキ うん……
マユミ さあて、仕事々々、ぐずぐずしてるとリストラされちゃう
ミツキ じゃあ、帰るね
マユミ なんだったら、マユミ、電子ポットと融合させてあげよっ
ミツキ か？ ネタになるよ？
マユミ (笑って) 遠慮しとく
ミツキ じゃ
マユミ じゃ
ミツキ 去りかけるマユミ。
マユミ マユミ
ミツキ なに？
マユミ ありがと
ミツキ うん……
マユミ 去るマユミ。
ミツキ 入れ替わりに、アサノがやっぱり書類の山を抱えてはいっ
マユミ てくる。

ミツキ ありませんよ、置くとこなんか
アサノ いやいや

かまわず、書類の山を置くアサノ。

ミツキ ちょっと、このごろふえてませんか？

アサノ なにがですか？

ミツキ 書類の量にきまつてるでしょ

アサノ いや、こんなもんですよ

ミツキ アサノさん、調子悪いんじゃないの？

アサノ すこぶる快調ですが？

ミツキ 快調ねえ

アサノ 快食、快眠、快便

ミツキ それだ

アサノ なにがです？

ミツキ ふえてんでしょ、出す量

アサノ (書類の山をしめして) 先生、これがウンコの山だとでも？

ミツキ ごめん、前言撤回

アサノ それよか、よくいらっしやいますねえ、ツキシロさん

ミツキ 正体ばらしたからかも

アサノ え？

ミツキ アサノさんとヒダカくんのことも

アサノ そんなあつさりど

ミツキ 話題になるかもよ

アサノ どうせ、冗談にしかとられませんよ

ミツキ そっかなあ

アサノ もっと、まっとうなラインでねらってください

ミツキ ほいほーい

アサノ たのみますよ、所長は、ウチのエースで四番で横綱なんだから

ミツキ さいごがおかしいでしょ、その譬え

アサノ もうそろそろ、卒業しなきゃ

ミツキ なにをいまさら、尾崎豊じゃあるまいし

アサノ おにいさんからですよ

ミツキ え……

アサノ そんなに気になるんなら、話しかけりゃいゝじゃないですか

ミツキ 話しかけるって

アサノ でなきゃ、コミュニケーションなんざ、はじまりっこあり

ミツキ やしませんやね

アサノ ……

アサノ それに、ほら、こうみえて、わたしたち、通信システムそなえてますし

ミツキ あはゝ……

アサノ だって、そのためだったんじゃないんですか、この研究？

ミツキ アサノさん……

アサノ じゃ、たのみますよ、ほんと、所長は、ウチのエースで四

番で横綱で立行司・木村庄之助なんだから

ミツキ わけわかんないでしょ！

去るアサノ。ミヅキ、気をとりなおすように、コーヒーを
いれて呑む。

ミツキ 通信ねえ……

眼を閉じて交信するミヅキ。

ミツキ ダメだ、木村庄之助の姿がじやまをして、集中できん

ふたたび眼を閉じるミヅキ。

タカシが現れる。

ミツキ おにいちゃん……

タカシ やつとつながったな……

ミツキ ごめん、おそくなっちゃって……

タカシ ミヅキなら、きつと見つけてくれるって、わかってたから

……

ミツキ 置いてったんじゃないかな……

タカシ あたりまえだろ……

ミツキ ほんと……？

タカシ たいせつなものを、置きわすれたりするもんか……

ミツキ (うれしい) そつか……

タカシ そっちは、どうだい……

ミツキ なんとかやってるよ、研究所、つぶれそうだけど……

タカシ つぶれたら、つぎを探さ……

ミツキ そうだね……

タカシ こんどは、地球上だけじゃないんだから……

ミツキ そっちはどう、おとうさん、おかあさん、見つかった……？

タカシ もうすぐさ……

ミツキ がんばってね……

タカシ あ……

ミツキ そういえば……

タカシ なんだい……

ミツキ そっちは、いま、何曜日……？

タカシ さあ……

ミツキ ロビンソン・クルーソーはちゃんと日記つけてたのにな……

……

タカシ あれは、十八世紀大英帝国植民地主義の産物だぜ……

ミツキ あ、アサノさんとおんなじ

タカシ え……？

ミツキ うん、なんでもない……

タカシ そっちは、何曜日なんだい……？

ミツキ もうずっと金曜日だったけど……

タカシ こまったね……

ミヅキ　でも、もう、だいじょうぶ……

タカシ　そうか……

ミヅキ　じゃあ……

タカシ　うん……

しだいに、明かり、ミヅキのみにしぼられて。

6 土曜日 Samedi

ミヅキ　また、二千五百十五年後の土曜日に……！

とたんに、あたりは一面の宇宙。やがて飛来する彗星の尾が、あなたに輝いて。
おしまい。

【参考文献】

市川春子『虫と歌』講談社アフタヌーンKC.

宇仁田ゆみ『うさぎドロップ』1～8、祥伝社FC.

八木重吉『八木重吉全詩集』1、ちくま文庫.